

# 輝き

三木市立三木特別支援学校 学校通信 No.5 令和5年9月1日

## 2学期が始まりました

本日、9月1日は2学期の始業式です。1学期の終業式で子どもたちに、「夏休みを元気に過ごして、始業式に元気に登校するのが夏休みの宿題です。」と話しました。そのとおりに、全員が元気に夏休みを過ごすことができました。40日間、子どもたちに寄り添い支えていただいた保護者の皆様に感謝いたします。また、児童生徒が利用させていただいた、放課後等デイサービスの職員の皆様にも感謝します。

さて今日から2学期が始まります。2学期はみきとくフェスティバルや小学部の修学旅行、トライやるウィークなどの行事があります。それに加えて、各種の交流活動が学期末まで予定されています。このような行事や普段の学習の中で、子どもたちが達成感を持てるように丁寧に取り組みます。そして、子どもたちの笑顔がたくさん見られるようにしていきたいと思えます。どうぞ2学期もご協力くださいますようお願いいたします。

## 何かいいこと 何か新しいことを

本校の現状と課題について、1学期の終わりに、職員に以下の話をしました。①全体として、丁寧に子どもたちに関わっている。その点において、特別支援教育の基礎的な専門性はあると考える。②各々が拠り所とする理論や技法を見つけてほしい。それによって、専門性がより高まる。③学習内容の検討にあたっては、直接体験を多く取り入れてほしい。④指導に関する検討会を開き、意

見交換を行う。以上の4点です。私が本校で学級担任をしていた二十数年前と比べて、本校職員はとても丁寧で穏やかに子どもたちに関わっています。その良さを維持した上で専門性を高めるためには、理論と経験、それに絶えずよりよいものを求める探求心が求められていると思えます。

この2学期が子どもたちにとって、これまで以上により良いものとなるように、「既成の枠にとらわれず、失敗を恐れず、子どもたちにとって何かいいこと、何か新しいこと」を求めていきます。そのためには、保護者の皆様や関係者の皆様のご理解やご協力がより一層必要になります。どうぞよろしくお願ひします。

## 三木市の教育が変わります

夏季休業中には、教職員対象の研修が数多く計画され、そのうちのいくつかを受講しました。全体の感想として、三木市の教育全体が変わっていかうとしていることを強く感じました。変わろうとしている方向性を表す言葉として、「当事者意識を持つ」が挙げられます。「当事者意識を持つ」とは、サービスをする側と受ける側という関係でなく、それぞれの立場で自分は何ができるかを考え実行することです。児童生徒や保護者、教職員、それに地域住民が当事者意識を持ち、よりよい学校、よりよい地域社会をつくる主体的担い手となることが求められています。特別支援学校として、変化に柔軟に対応します。 校長 橋本 泰一